



TITLE:

バグダット旅信

AUTHOR(S):

宮崎, 市定

CITATION:

宮崎, 市定. バグダット旅信. 東洋史研究 1938, 3(3): 257-257

ISSUE DATE:

1938-02-28

URL:

<https://doi.org/10.14989/145604>

RIGHT:

る反對史料に論及して居ない點も甚だ物足りない感がある。これ等は著者としても再考察を要する點ではなからうか。

又從來女眞史の專攻者の間に於いて屢企てられ乍らその煩雜なるがために放棄されて居た猛安謀克名の蒐

バグダツト旅信

宮崎 市定

九月七日イスタンブルに着き此處が大へん氣に入りましたので十日程滞在し海峽を越えて、小亞細亞に渡りアンゴラに一日、古城の外に別に見る可きものなく、汽車の都合でカイゼリーといふ小都市に一日滞在しました。北京などよりもつと埃っぽい汚い町でした、それから汽車にゆられること一晝夜、シリアアレツボ着、此の地方第一の大都會で古い城郭が残つてゐたり博物館があつたりして割合に面白く四日間を過しました。旅行に出る時はイラクに入る考は毛頭なかつたのですが、砂漠に誘惑されて土耳其のバグダツト鐵道に乗り、イラク國境迄來、自動車にのりかへてモスルに到着しましたこの汽車は何か平緩線といつたやうな感じのする田舎鐵道で一週に二回しか動きません。時間表はあれどもなきが如く、まるで一晝夜荒漠たる平野を走りつゞけて人も荷物も埃まみれになつて、チゲリス河畔モスルについた時はホツとしました翌日早速對岸のニネブを訪ひましたが、土山があるばかりで何もなく失望しました。町の北方にアラビア時代の門や城壁が残つてゐるものゝ方がすつと興味を惹きました。町の中を歩いてゐる中、二丈程の高きの斷崖あり、ベルシャ陶器の破片を澤山含んでゐるのを發見し表面採集——名バタヤを行ひ大ぶん集めました。勿論、形のまとまつたものなどなく、美

集、その冠稱と先住地名との比定(多少の疑問はあるも)等は、今後一層深めらるべき女眞史の研究に多大の便宜を與へるものとして學界は擧つて著者に感謝すべき點であらう。尙卷末に索引を附せられたことは大いに著者の勞を多とすべきである。(小川裕人)

術的の價値は零ですが、同じ青緑釉のものばかり随分古い時代のものから現代のまで連續して見られる様ですから、製陶業の發達を見るにはよい材料になるかと思ひます。併し何分重いのので捨てゝ了はうかと思ふこと屢々あり、果して持つて歸れるかどうか疑問です。(中略)自動車に飛びのつてバグダツトに向ひました。所がこの自動車。貨物自動車に腰掛をうちつけたもので、動搖すること一方ならず、前進するよりは上下に動く方が多いと云ふ代物です。アラビヤ人と一しよに牛馬同様にすみこまれ身動きもならず、夜の十一時に着くといふ話したつたのが翌日の晝頃になり、結局一晝夜、漕刑囚の苦役を嘗めました。全身に打撲傷が數ヶ所出來たやうでした。(中略)バグダツトはアツバス朝のものが澤山に残つてもゐると思ひきや、市街の外郭も分らぬといふ狀態でそれも來て見て分りましたが、凡てが軟い粘土を軟く焼いた煉瓦を材料にしてゐるので一度瓦解すれば一朝に泥土に歸するといふ狀態で都市の膨張も早い代りに没落も徹底的なのでせう。この附近みな石を用ひぬ泥だけの建築にて、ペビロンにしても大したものなく、寫眞で見てどんなに綺麗かと思ふものゝ實物を見ると粘土細工なものには全く失望してしまふ。この土地アラビヤ人の尤も人氣悪い所にバタヤもうつかり出來す何の收穫もありません。バストラへ行くには日數もかかり、明唐宋の銅錢が落ちてゐるさうにもないので之はやめました。明朝當地發又一晝夜砂漠の旅をつゞけてダマスカスに入ります(十月十六日 羽田教授宛)